

全八木地区みんなの広報紙

第 37 号

2024(令和6)年3月1日発行

発行所 八木地区市民協議会
発行 笠松 武志
連絡先 市立八木市民センター
☎443-6848

広報紙配布部数 (令和6年3月現在)

Table with 2 columns: Distribution locations (e.g., 西大路町, 東大路町) and their respective numbers of copies.



八木地区市民協議会 活動報告



会長 笠松 武志

八木地区の皆様こんにちは。令和五年度八木地区市民協議会会長に任命されました、西大路町の笠松武志です。

各町会・各種団体・学校関係者の皆様におかれましては、平素より八木地区市民協議会の活動にご理解とご協力頂き厚くお礼申し上げます。

活動報告の前に八木地区、新条地区、城北地区の皆様が活動の拠点として使っていた建物が完成致しました事をお知らせ致します。

歴代の町会長、祭祀団体、建築のために結成された建設委員会メンバーのご尽力と各町会、墓地委員会、岸和田市等のご協力により、念願の久米田コミュニティセンターが完成いたしました。



【久米田コミュニティセンター】

コミュニティ(共同体)とは同じ地域に住居し、利害を共にし、深く結びついている人の集まりという意味があり、祭祀団体はもとより各町会・老人会・婦人会・子供会等や地域にお住いの皆様方、そして当協議会の各部署の皆様が当コミュニティセンターを利用していただき地域の活性化に役立てて頂きたいと願っています。

今年度は十八町会のうち十二町会の町会長が新任されました。町会長におかれましては各町会の行事等スムーズに運営出来ますようお願いしたいと思います。

市民協議会の各部署では様々な活動を行っており、福祉部会ではお年寄りから子供までを対象に行事を企画し、社会福祉協議会等と連携しながら活動をしています。

環境部会では二か月おきに町内から出る埋め立てごみや廃油などの回収を行い、市の環境課と連携しています。

青年部会では地域の学校に援助や祭祀の前に非行防止の催しを行ったりして青年の健全育成を目標として活動しています。

夏祭りの開催や文化講演会を企画したりしています。広報部会では、この広報誌『いきいき八木』の発行や講演会等を行っています。

昨年はコロナ禍でしばらく出来なかつた防災訓練を再開する事が出来ました。近年、地震、台風、局所的豪雨などの自然災害が頻発に起こるため、昨年に引き続き今年度も防災訓練に挑戦することにしました。

十一月には二回目の避難所解説訓練の組織図の確認、任務役割分担の再確認を行い、十二月十七日には岸和田市消防署の指導、危機管理課の協力により仮設トイレの設置、段ボール箱でベッド作成、パーテーション作成、炊き出し訓練、三角巾の実習を行いました。

訓練をすることにより各部署の役割を再認識でき訓練の必要性が確認できました。各町会におかれまして



も町会役員様、隣組様で町会独自の防災避難訓練を計画・実施をお願いしたいと考えております。

二月二十四日にはマドカホールに於いて防災訓練の今年度まとめとして、気象予報士・防災士である正木明様をお招きし「防災(自助・互助・協働)」気象をテーマに防災講演会を行ないます。

八木市民協議会・各部署は安心・安全な街づくりを目標に地域活動を目指して行きたいと思っております。

平成27年に、私は八木地区町会連合会会長の時、岸和田市より「久米田駅周辺まちづくり懇話会」を開催するので委員として出席して欲しいとのことで、委員メンバーとして八木3校区長・山直校区長及・久米田駅前商店街の代表・岸和田商工会議所代表の6名でスタートしました。



八木地区町会連合会顧問 岡野 輝秋

久米田駅西口改札開設

最初の会議では、市より具体的な内容の説明があり、その後委員の意見を述べました。その中で、久米田駅西口改札の開設を早急に何とかしてほしいとの要望や久米田駅前の開発及び商店街の活性化等出されました。その他、何年後になるかわかりませんが駅の高架の問題も提起しま

した。特に西口の問題は、八木地区の住民はもとより、JR久米田駅を利用される人たちの長年の願望であることとを強く要望しました。

何回かの会議のち、平成28年8月の会議で岸和田市から最終としての構想を「久米田駅周辺まちづくり基本構想」が提起されました。

具体的な内容としては、令和5年9月に西口改札の開設と久米田駅前の開発を同時進行で取り進むこととした。実際竣工したのは、西口の改札だけでしたが、駅前の開発や商店街の活性化も今後取り組んでいただくことを要望しておきました。

改めまして、岸和田市・JR西日本・地元の方々のご尽力に心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

最後に、地元の協力が今後の取り組みに大きな力になることを改めて認識しました。今後、八木地区の活性化のため皆様方一人一人の力を一つにして、頑張ってください。引き続きよろしくお願い致します。(2023年11月15日)



(2023年11月15日)

久米田池夏祭り

久米田池夏まつり実行委員会 会長 岡野 輝秋

昨年に引き続き、8月5日(土)「久米田池夏まつり」を開催することに決めました。完全にコロナの感染が終了はしていませんが、手指消毒やマスクの着用などにも注意をしながら進めてまいりました。



Table listing names and addresses of participants in the festival.

新たな取り組みといたしまして駐輪場の整備の徹底と花火の打ち上げ時間を(8分↓10分) 2分間延長しました。当日は、早朝より晴天で準備には体中汗だくの暑さでした。そんな午後4時45分より開会式を行いました。ご来賓として岸和田市長をはじめ地元の府会議員・市会議員さんのお出陣のもと、ご挨拶をいただき、午後5時15分よりイベントを開始いたしました。開始後、雲行きが怪しくなるとはばらくすると大雨になり、たぶんわか雨だろうと少し様子をみていましたが、やむ様子もなく音響等器具の損壊の恐れもあるのでイベントを中止しました。

役員名簿

Table listing the names and addresses of various committee members and staff, including Chairman, Vice-Chairman, and various department heads.

福祉部会 活動報告



福祉部会長 山中 豊子

令和5年9月9日(土)八木市民センターに於いて、八木三校区合同ボランティア・高齢者研修会を開催しました。

今年度の講演のテーマは「元刑事が語る犯罪者の目線、そしてその心理」と題して、元刑事でコメントーターとして活躍されている折元洋己氏にご講演をいただきました。

身近な防犯対策として、具体的に被害現場画像を示し、玄関対策、窓対策、死角対策(環境)の重要性を話されました。住宅に侵入する窃盗犯が、その侵入する開口部は、玄関まわり特に「扉」「窓」に限られ、その部分を最初に守ることが最も重要な対策だそうです。犯罪の起こる場所の共通点は、犯人が「入りやすい」、犯行が「見えにくい」場所だそうです。秩序感が薄い無関心な場所、落書き、ごみの散乱、放置自転車、伸び放題の雑草、切れた街灯には注意し



ましよう!!近所さんと「あいさつ」を交わせる関係も大事です!!日頃から顔の見える関係を築いておく大切さを学びました。犯罪のない住みよい町になるよう心がけたいと思います。

*終了後、社会福祉協議会より赤い羽根共同募金のお願いがあり、福祉部会では研修で学んだ事を取り入れ、住みなれた地域の安全で安心な町づくりに協力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願致します。

(2023年11月15日)

人権啓発部会 活動報告



人権啓発部会長 小南ひとみ

令和5年度校区别人権問題研修会「なるほど!人権セミナー」を11月8日(水)に八木市民センターにて開催しました。「子どもの人権」がテーマで映画「夕焼け」を上映しました。「ケアラー」とその家族が抱える問題解決の糸口になる様子が描かれていました。ケアラーとは「介護」「看病」「療育」「世話」「気遣い」など、ケアの必要な家族や近親者、友人、知人などを無償でケアする人のことです。

映画の中の主人公は「ヤングケアラー」と呼ばれている高校生でした。一般に本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の子供です。

文部科学省と厚生労働省が令和3年3月に公表した「ヤングケアラーの実態に関する調査結果」によれば中学2年生の17人に1人がヤングケアラーであると発表されています。ヤングケアラーの中には自覚のないままケアしている子供も多くいます。行政の支援も必

要ですが周りの大人たちが少しでも気づいてあげればいろんな支援ができると思います。

11月30日(木)にはコロナ禍で実施できなかった人権啓発バスツアーを企画しました。京都伏見区の中書島には近世から戦後まで遊郭があり、多くの女性たちが苦界に身を投じました。この地に生きた都市下層の人々に思いを寄せ人権を考えるフィールドワークでした。

学んだことを、少しでも身近なところから発信することができればと思っております。今後とも皆様のご支援ご協力のほどよろしくお願い致します。

(2023年11月23日)

青少年部会 活動報告



青少年部会長 田中 貴子

日頃より、青少年部会の活動にご支援ご協力を頂き誠に有難うございます。

さて、去る8月27日(日)、14:00よりマドカホールにて『八木祭礼非行防止決起大会』を開催致しました。今回は4年ぶりに人数制限無しでの大会でした。満員の会場で皆さんと青少年の子ども達について共に考えられたのはとても充実した時間だったと思います。

又、開催にあたりましては、役員の方々、ご来賓の皆様、当日お越し頂いた皆様方のおかげをもちまして無事に終えることができました。

この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。昨今の子どもの問題行動については、地域のコミュニケーション能力の低下が大きな要因のひとつだと言われています。しかしながら私達の住むこの八木地区に

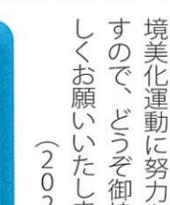
は、祭礼で培った地域のつながり、世代を超えた絆があります。どうか皆様には怖いおっちゃん、お兄ちゃん、口うるさいおばちゃんになつて頂いて厳しくも温かく、子ども達を見守って欲しいと思っております。

最後になりましたが、八木祭礼がこの先もずっと明るく楽しい最高のお祭りとなりますように心よりお祈り致します。

今後とも、青少年部会の活動にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(2023年10月18日)

環境部会 活動報告



環境部会長 西浦 吾一

環境部会会長を務めさせて頂いております。西大路町の西浦と申します。なにとぞよろしくお願致します。日頃は、環境部会の活動にご協力を頂きまして、誠にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて当環境部会では、二か月に一度、各町会さんの部会の方々のご協力を頂き、埋め立てゴミの回収を始めとして、該当月には、刃物及び廃油の回収を実施しております。埋め立てゴミを持参された方からは、ゴミの分別についての質問を頂くこともあり、皆さんのリサイクルや資源の有効活

用に対する関心の高さをひしひしと感じております。その意識が今よりもっと広く浸透するように努力をさせていただこうと思っております。また、私の西大路町では、月一度の廃品回収活動を、各祭礼団体の輪番制とし、若年層のリサイクルに対する意識の向上に努めております。その甲斐もあってか、若い世代からのリサイクルに対する意識の高まりを感じられております。各町会様におかれましても、環境部員以外の方々の積極的な美化運動への参加が行われていると聞き及んでおります。今後より一層リサイクル、環境美化運動に努力をまいりませので、どうぞ御協力のほどよろしくお願い致します。

(2023年10月31日)

八木連合青年団 活動報告



團長 黒濱 将剛

昨年度3年ぶりの八木地区祭礼が行われ、昨年度の経験等を踏まえ、より伝統ある八木祭礼が盛り上がるように準備をして参りました。

今年度の八木祭礼は大きなトラブル等なく、どの町も勢いのあるやりまわしを披露することが出来たと感じております。連合青年団では、毎年八木地区各町の青年団のソフトボール大会を通じて交流を図り、一年を通じて全町の親睦を深め、より八木地区が活性化されるように努力しております。

また、八木地区の青少年活動につきましても、青少年指導員の方々も今後連携をとり、これからの若い世代を伸ばし育てていくべくお力添えさせていただきます。

けたらと考えております。最後になりましたが、私たち連合青年団がこの先も八木地区各町と連携をとり八木地区が今後も活性化されるよう努力して参ります。また地域の皆様の多大なご理解とご協力を紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。これからも八木地区のさらなる発展の為、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

(2023年11月22日)

連合子ども会 活動報告



連合子ども会会長 山出 伸浩

日頃より八木連合子供会活動にご理解とご支援・ご協力を賜り心より御礼申し上げます。

令和2年度から続いた新型コロナウイルスウィルス感染拡大による制限もいまだ完全収束とは至っていませんが、それでも徐々にではありますが以前の賑わいを取り戻しつつある中、八木連合子供会としても感染防止には注意しながらでもありますが活動していきたいと思っております。

さて、令和5年度の活動として、5月14日(日)に球技大会(ドッチボール大会)を予定していましたが、前日からの天候悪化のため楽しみにしていた子供達には申し訳ないのですが、やむなく中止することになりました。

また、昨年度も開催できなかった運動会ですが、今年度は10月22日(日)に八木南小学校のグラウンドをお借りして実に4年振りの開催となりました。競技も八木・八木北・八木南の3校区対抗による玉入れや綱引き、各町対抗による徒競走や障害物競走、そして一番の盛り上がりを見せたのが各町対抗男女混合リレーでした。開催

広報部会 活動報告



広報部会長 杉原 富人

広報部会の活動は、『いきいき八木』の年一回の発行と公開講演会の開催です。後者に関して、2023年度は3回公開講演会を開催しました。以下に、第1回および第2回の講演会の概要を報告します。いずれも岸和田市立図書館および岸和田市図書館との共催であり、場所は八木市民センター講座室1で実施しました。

なお、第3回の講演会(歴史の重層性からみた摩湯山古墳と久米田古墳群)講師:山岡邦章氏は原稿締切日との関係で、次号に紹介いたします。

- 1)「ヤマト政権と摩湯山古墳・久米田古墳群」講師:西川寿勝氏(大阪府立狭山池博物館・元学芸員)、2023年6月17日、13:30~16:30、参加者74人。

4・5世紀の久米田地域の古代史について、近年の発掘成果やヤ

(2023年11月13日)

マト王権の研究から紹介された。4世紀中ごろに築造された全長200mをほこる摩湯山古墳の被葬者は？5世紀の久米田古墳群との関係は？百舌鳥・古市古墳群が造られていたころの泉州の歴史を紹介されました。

講演内容のポイントは次のとおりです。まず、弥生時代の滅びた一因が気候変動（1277年が最多雨量）によるなど興味深い前置きにつき、古墳時代の「ヤマト政権」から説き起こされました。次いで、

箸墓（ハシハカ）古墳など纏向（マキムク）遺跡周辺に古墳時代前期前半に築かれた大型古墳「オオヤマトの六王墓」に触れられました。マキムク遺跡の終焉に伴い佐紀古墳群の大王墓が築かれ、同時にこれらに匹敵する規模の古墳が大和・河内地域の各地に築かれます。

和泉の摩湯山古墳はこれらと同時期、同規模であり、有力豪族の墳墓と位置付けられるとのこと。また、久米田古墳群は、摩湯山古墳に続き築かれるが、貝吹山古墳の被葬者は茅渟（ちぬ）の原主（あがたぬし）が候補と指摘されました。大規模な前方後円墳は政権側が禁じていたことなども興味深い点です。なお、全国で古墳の数が16万基（城は山城跡も含めて4万）、また、数の多い順は千葉・群馬・茨城と関東であることを初



めて知った参加者も多かったようです。

参加者の感想には、「古墳のことがいろいろ聞けておもしろかった」「摩湯山古墳の時代背景がよくわかった」「楽しくわかりやすかった」の声と共に、「私にはむつかしかった」という声も。それでも、専門的な内容をユーモアも交えた軽妙な語り口で聞くことができて、参加者それぞれ楽しいひと時を過ごされたようです。

2)、「日根荘（ひねのしょう）にみる鎌倉期と戦国期」荒野開発と年貢徴収、講師：井田寿邦氏（泉佐野の歴史と今を知る会事務局長、2023年8月5日、13:30〜16:45）、参加者50人。



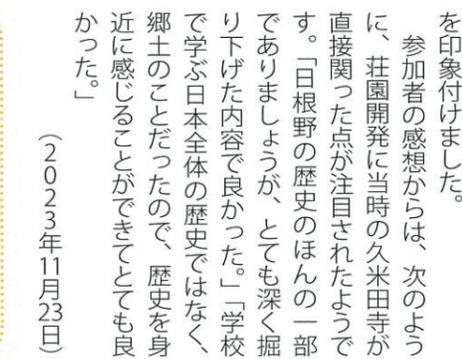
まず、講演の前半では、鎌倉時代に日根野荘の荒野開発を目的として中世久米田寺によって作成され、現存する荘園絵図（日根野村・井原村絵図）と「日根野村絵図」を素材とした新田開発の経過を紹介されました。荒野であった原野をいろんな人たちがかわり、生産を高めるための私有地としての「荘園」の始まりから、守護代官、久米田寺のかかわりを詳しく説明されました。

次に後半では、戦国時代に日根荘領主・元関白の九条政基（くじょう・まさたか）が4年間当地に滞在して（1501年3月〜1504年12月）記した日記「政

基公旅引付」を素材とした年貢徴収の実態を解説されました。この中で、九条家の動向、開発を巡る対立、さらには戦国期の根来寺の勢力伸長、彼のぼやきと借金、そして帰京の背景等を紹介されました。

これらの内容をとおして、日根荘の変遷と中世における農民の生活を詳細に浮かび上がらせました。日根荘の鎌倉期は、荒野の新田開発をめぐる権益が課題であったが、他方、戦国期になるともはや新田開発はなく、年貢徴収が焦点になった経緯が興味深い点です。この下での農民が「惣村（そうそん）」を形成し、彼らが集団化して水利・開発を主導したことは一面、当時の農民のしたたかさを印象付けました。

参加者の感想からは、次のように、荘園開発に当時の久米田寺が直接関わった点が注目されたようです。「日根野の歴史のほんの一部でありましたが、とても深く掘り下げた内容で良かった。」「学校で学ぶ日本全体の歴史ではなく、郷土のことだったので、歴史を身近に感じることができてとても良かったです。」



（2023年11月23日）

小・中学校の活動報告

久米田中学校



校長 田中 裕雄

平素は、学校教育活動にご支援ご理解ご協力いただきありがとうございます。さて、長い感染症対策で活動が

制限されていたものが、令和5年度からは以前の体制を取り戻すべく、一つ一つの行事などを精選しながらスタートいたしました。

本年度は、1年生6クラス、2年生6クラス、3年生7クラス、支援学級11クラス（府下1位）、生徒数733名（泉南地区1位）の大規模校です。

1年生は、5月21日から一泊で貝塚市の少年自然の家を中心に活動しました。

3年生は、6月18日が二泊三日で東京方面に修学旅行に出かけました。二日目のデイズニールランドがメインでしたが、初日の富士山周辺で行った様々な体験活動は、晴天も手伝って爽快なもので、終日富士山を眺めながら、千円札に刷り込まれた風景そのものが現出する素晴らしい雰囲気でした。



制限されていた文化祭も復活し、各クラスでの出し物や展示物を見て回りました。また、放課後には、合唱部や芸能部の発表で盛り上がりました。

熱中症対策で大きく時期をずらして10月27日に行った体育大会。昨年度は、数年ぶりに全学年そろっての開催でしたが、本年度も以前の姿と同じ、全生徒参加型で行うことができました。

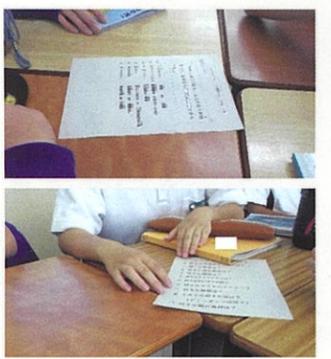
ンは、久米田中学校としては久々の演技。少しずつ以前の活況が戻ってくる実感を得るとともに、3年生の3年生らしい姿に触れることができ、非常に感動的でした。



地域の方はじめたくさんの施設や店舗のご協力を得て、2年生は、11月17日に職場体験を実施しました。これも何年かぶりの行事の復活です。

本年度より全校一斉に月曜日の朝、「くめろんタイム」と称した社会性向上のためのスキルトレーニングを始めました。

4人一組になり、いろんな質問に答えながら、相手の話すことを



認めていく取り組みです。2学期に入り、要領もわかってきたのか、たくさんの生徒の穏やかな笑顔に触れる機会が増えてきました。

また、昨年度以上に情報発信に努めております。久米田中学校のホームページを日々更新しています。是非ともご覧ください。

八木小学校・幼稚園



校長 関本安紀子

令和5年度

学校の教育活動

八木小学校幼稚園に着任二年目となります。平素より、地域の皆様方には、本校園の教育活動に、ご理解とご支援を賜り厚く感謝申し上げます。今年度は、コロナ禍で規模縮小や人数制限をしていた学校行事を、可能な範囲で拡大したり工夫したりしながら教育活動を実施しています。

さて、本校は教育目標を『生き生きとした心豊かな子どもを育てる』『知・よく考える子』『徳・真心を大切にする子』『体・明るく強い子』と掲げ、取り組んでいます。その観点で順に紹介します。



まず『知・よく考える子』に関して、自分の考えを表現できる児童の育成をめざし、今年度は「言語活動」を中心に授業研究に取り組んでいます。写真は5年生の国語の授業の様子です。自分の考えを表現し、友だちと意見交流する中で考えを深めていきました。学習の系統性を意識し、教職員は研鑽を積んでいます。

次に『徳・真心を大切にする子』に関して、「自分も周りの人も、全員が大切な存在」であることを、授業や集会で話しています。取り組みとしては、平和学習や人権集会、十月土曜参観の人権学習、〇〇の木（元気・やる気・勇気をテーマに友だちへメッセージ）の掲示等です。金子みすゞさんの詩「みんなちがって みんないい」のように、互いのよさを認め合い人間関係を構築していくことが大切だと考えています。（写真は平和集会の様子です）

次に『体・明るく強い子』に関して、毎日、給食当番・掃除当番を協力して頑張る姿は立派で微笑ましいです。体育的行事では、今年度、学校水泳の形が大きく変更しました。今木プールの老朽化・閉鎖に伴い、コナミスポーツにて写真のようにコーチから水泳指導を受けています。十月の運動会ですが、グランドコンディションが悪く実施が難しい状況でした。（4面へ続く）



早朝から教職員がグラウンド整備プログラムを変更。運動会の途中でも、PTA委員様はじめ保護者様に協力いただき再度グラウンド整備。そのおかげで、子どもたちが最高のモチベーションで、ダンス・リレー・徒競走などを披露でき、達成感に満ちた誇らしい表情が最高でした。皆様の温かさが身に沁みました。(写真は四年生のダンス)



幼稚園では、「遊び込める子は遊び込める」と言われるように、子どもの柔軟な発想から趣向を凝らした環境設定をしています。六月忍者遊び・七月水遊び、目を輝かせて遊ぶ園児。その遊びを保育所や小学校へも紹介し、楽しく交流できました。九月の敬老参観では、おじいちゃんやおばあちゃんとの触れ合いを通して、大切にされていることが実感できる貴重な機会となりました。また、十月には地域のだんじりを見学させて



いただき、とっても喜んでいました。 (写真は敬老参観の一場面です)

伝統を継承し繋がりを大切にしている地域で育つ将来の宝、八木小学校幼稚園の子どもたち。子どもたちが健やかに成長し、未来を生き抜く土台づくりとなるよう、教職員一丸となり励んでいきます。地域の皆様には、引き続きご理解ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

(2023年11月17日)

八木北小学校・幼稚園



校長 田邊 真理

平素は、本校園の教育活動に多大なるご支援ご協力を賜り、ありがとうございます。

本校の学校教育目標は、「たくましく、生き生きとした子を育てる」

よく考える子(知)・心ゆたかな子・進んで働く子(徳)・たくましい子(体)

です。それを受けて、今年度の重点目標は、「一人ひとりが輝き、笑顔があふれる八木北小学校園」としました。学校教育においては、学習意欲を高め、知識の活用やコミュニケーション能力の向上を図る中で、「生きる力」を育てて

とが求められています。本校園では、「生きる力」を育成するために一年間を通して様々な学習・行事を行っています。今年度は、五月にコロナが5類に移行されたことに伴い、さまざまな行事を制限なしに進めることができています。

昨年まで分散で行っていた授業参観は、一堂に会して一学期に二回、二学期に二回行うことができました。また、運動会も人数制限なしでの実施となりました。熱中症対策と子ども達の体力面も考慮して午前中の開催としました。競技・演技はコロナ前の各学年三種目に戻しました。午前中の開催にするために時間短縮の様々な工夫を施し、予定通りに無事終了しています。たくさんのお客に見守られて、精一杯の演技を披露することができ、子ども達にとつ



て思い出に残る大満足な運動会でした。



また、六年生は十一月十日・十一日で広島に修学旅行に行ってきました。事前に一人ひとりが戦争について調べ、縦割り活動では下級生と一緒に平和を願って鶴を折り、千羽鶴を完成させました。その千羽鶴を持って広島へ。平和セレモニーでは、八木北小学校みんなの平和への思いを伝え、千羽鶴を捧げました。原爆資料館やオリエンテーリングでは、原爆が投下された当時の様子や戦争についてしっかりと学習してきました。この後、学んできたことをしっかりと下級生たちに報告してくれたいと思います。音楽会については、昨年度まで各クラスの演奏のみのタブレット視聴とさせていただいていましたが、今年度は体育館で参観していただくこととしました。

八木南小学校・幼稚園



校長 山下 善久

子ども達は、様々な行事で自分達の頑張る姿をおうちの方や地域の方に観てもらい嬉しそうです。今まで頑張ってきた積み上げてきた成果をたくさんの方々に観ていただくことで、次の行事や学習への意欲につながっていきます。これからも様々な行事や学習を通して、成就感・達成感を味わい、大きく成長して欲しいと考えています。

(2023年11月15日)

今年度で本校園での勤務が2年目になりました。地域の皆様には、平素より本校の教育活動に対してご理解とご支援をたまわり、誠にありがとうございます。

コロナ禍による教育活動の制限も緩和され、ようやく学校の教育活動は、元の形を取り戻してまいりました。

夏はまなび中央公園プールと八木北プールを利用して、全学年において水泳指導を本格的に再開することができました。

また、九月十日(日)には日曜参観を行いました。この際に保護者の皆様を対象とした教育講演会や、大規模災害の発生に備えた児童引き渡し訓練を実施しました。

一〇月十五日(日)に開催した運動会においては、実施時間は昨年度と同様の午前中のみ開催で



ですが、プログラムの進行に工夫を加え、全学年において走競技・団体競技・表現(ダンス等)の三種目を実施いたしました。

また今年度は、保護者の皆様の観覧に全く人数制限を設けませんでした。

ただ残念なことに、四年生において一学級がインフルエンザ感染症により学級閉鎖となったため、運動会に参加できませんでした。そのため四年生は後日、日を改めて、学年で体育発表会を行い、三種目を実施いたしました。

子どもたちはこの運動会を通して、仲間と協力することの素晴らしさを学び、今後の良好な人間関係づくりをめざしてくれるでしょう。

修学旅行は一月二日から三日にかけて、広島と姫路セントラルパークを訪れました。

広島平和記念公園の原爆の子の像の前で、子どもたちが原爆で亡くなった方々への慰霊のセレモニーを行った際には、多数の外国人観光客の方々から拍手をいただきました。

子どもたちはこの修学旅行によって、改めて平和の大切さを理解し、より成長したよう、大変有意義で楽しい修学旅行となりました。

幼稚園では今年度も地域の皆様にご協力いただき、小学校の校

庭の一面を利用して、焼きイモ体験を実施いたしました。ご家庭では、焚火を燃やしてイモを焼くことなど、なかなか難しい状況ですので、園児たちには大変貴重で楽しい体験をさせていただくことができました。誠にありがとうございます。

(2023年11月20日)



編集後記

「いきいき八木」第37号をお届けします。発行にあたりお忙しいにもかかわらず、原稿をお寄せいただいた方々に厚くお礼を申し上げます。本号も多くの八木地区の皆様にお読みいただければ幸いです。

さて、久米田貝吹山古墳と摩湯山古墳に代表される4世紀中頃に築造され、岸和田市にある古墳がヤマト王権とどのような関係があったのか?この問題を、2024年度も引き続き広報部会として公開講演会企画のテーマにします。春と秋に魅力的な講師をお招きする予定です。ご期待ください。

広報部会長・杉原 富人